

---

# さくら

かなえ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さくら

### 【コード】

N6530G

### 【作者名】

かなえ

### 【あらすじ】

桜に恋をされた男の子は、その子の秘密を知ってしまう…

僕の家目の前に、小さな公園がある。

その中には、木がかたまつてあつて、（僕は林と呼んでいる）

林の中には、僕の大好きな場所がある。

桜の木。

僕の家からでも見える、大きな桜。

僕は、小さい時から、そこがお気に入りだった。

ほとんど人が来ないその場所は、

僕の秘密基地だった。

のはずなんだ・・・

僕が桜を見上げていると、

「だあれ？」

女の子の音がするじゃないか…！？

僕は後ろを向いた。

僕より少し背の小さい女の子が、そこに立っていた。

髪はサラサラで、ピンク色のワンピースを着ている。

そのきれいな色といたら・・・

まるで、この桜の花のように・・・

「だあれ？」

その子はもう一度聞いた。

「洗一。」

僕はそう言った。

「きれいな。」

女の子はそう言って、僕の隣にきた。

僕も桜の木のほうへ向いた。

「君の名前は？」

「・・・」

とても小さな声で、もしもしと言った。

「なんだい？もう一回。」

「さ・く・ら！！」

大きな声でそう言った。

なんだか、すごくはずかしそう。

「さくらか。」

「ちがう！！桜！！！」

「??？」

「あたし、あなたのこと知ってるわ。」

「なんだって？」

「いつも、この木の上から見てる。」

この木は高くて、登れないはず。

木登りは得意なほうだけど、僕も登れなっかたもの。

こんな小さい子に、登れるわけ…

「あ！！！」

そうか・・・

「この子は「桜」なんだ。」

「さくら」「じゃないんだ」

本物の、桜なんだ。

だから僕を、上から見れるんだ。

このワンピースは、桜で作ったんだ……

「あなたに、会いたいって思ったら、風が、あたしを人間にしてくれたの。」

「あなたのことが……」

ときんつと胸が鳴った。

「すき……」

女の子は、風に吹かれて、遠くへ行ってしまった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6530g/>

---

さくら

2010年11月26日06時47分発行